



前回の特集「まちづくりと交通」に対して市民150人から264件の意見をいただきました。代表的なものをご紹介します。

(1) 地域内交通についてどう思いますか？

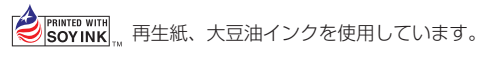
- 非常に良いと思うが、路線バスとの乗り継ぎがスムーズにいくことが必要である。そのために路線バスの定時運行、本数確保、乗り継ぎ場所の確保が必要である。(陽東3丁目 50代)
- 宇都宮市民は広範囲に分散して居住しているので、ミニバスや乗合タクシーなどを利用できるようにすれば高齢者も利用しやすくなる。(戸祭 50代)
- 各地域に対応した交通手段を考慮するとともにPRが必要であり、地域、企業、市の連携体制を構築すべき。収支等財政面での採算を度外視してはならない。(鶴田町 40代)
- 清原さきがけ号の取り組みはいいと思う。高齢者が増えるこれからは、公共交通を使ってどんどん外へ出て地域経済の活性につながっていけばよい。(富士見ヶ丘2丁目 50代)
- 現在、車を使っているが、地域内バスが通れば利用でき、清原地区のように高齢者が助かる。温暖化防止にもつながる。(石井町 70代)
- 大変良い試みでぜひ推進させたい。地域内での連帯感も高まるし安全対策にもつながる。子ども達、お年寄りの「足」を確保する事にもなる。社会のつながりもできてくるし会話も増えると思う。(鶴田町 40代)

(2) どうすれば、クルマに頼り過ぎない生活ができると思いますか？

- きめ細かく、低料金でサービスレベルの高いバスを走らせてほしい。(横山町 60代)
- 免許返納時に公共交通利用無料のパスポートの交付や、道路をつくるお金でバスを増やしてはどうか。(30代)
- 駅よりも宮環で乗り継ぎができるような路線(パーク&ライド)を検討すべき。市営バスも走らせてほしい。(宝木本町 70代)
- 街中の駐車場を利用しにくくし、街の中心まで公共交通機関のほうが得策であると市民にPRする。(60代)
- 自転車・歩行者が安全に楽しく走れ、歩けるような環境を作ってほしい。特に自転車道の整備を。車よりも自転車、歩くという環境になってほしい。(富士見ヶ丘2丁目 60代)
- クルマを使わないほうが楽・安い・早いなどのメリットがあれば公共交通はもっと利用されると思う。(雀の宮2丁目 30代)

広報うつのみや特集号は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回発行します。また、毎月1日発行の通常号の次回(8月号)は、8月1日配布です。

広報うつのみや 特集号はホームページでも見られます。
<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



前回の特集「まちづくりと交通」の概要



高齢者の移動手段の確保が課題
車に依存した社会は、交通事故や環境破壊などの問題を引き起こしているばかりでなく、公共交通の利用者減少の原因にもなっており、それに伴う収益悪化の影響で、運行本数の減少や路線の廃止につながっている。一方、県内における65歳以上の人の54%は運転免許を持っていない状況にあり、公共交通しか移動手段のない人の生活の足の確保が課題となっている。公共交通の維持のためにも、車に頼り過ぎた生活から、車と公共交通をうまく使い分けた生活に転換していく必要がある。

地域の足「清原さきがけ号」発車

清原地区では1月から、地域内交通の試験運行が始まった。地域内交通とは病院や銀行、商店、地区市民センターなど生活に必要な場所を回る公共交通であり、地域住民が主体となって「きよはら地域内公共交通運営協議会」を立ち上げて運営に当たっている。地域内交通は地域、運行事業者、行政が協力して運営していくことが望ましく、市は「地域の足」を考える地域の取り組みを支援している。

料金受取人払

宇都宮中央局
承認
3017

差出有効期間
平成22年7月
14日まで
【切手不要】

郵便はがき

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所
年齢	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。